

## 公益財団法人 長野県長寿社会開発センター理事長 退任に当たって

内山 二郎

平成 25 年（2013）6 月に長野県長寿社会開発センター理事長に就任して 11 年。阿部知事をはじめ県行政機関、民間関係団体、県民、そしてマスコミの皆さま方には大変お世話になりました。退任に当たり心より感謝申し上げます。

この間、長寿社会開発センターとして取り組んできた経験を踏まえて、新たな時代へ向けての課題を考えてみたいと思います。

- 1 コロナ禍があったとはいえ、この数年のシニア大学入学者、賛助会員数の減少が続いている。これまでの学生募集への取り組みの中で、シニア大学の存在を知らない県民も少なくないと感じている。長野県シニア大学を魅力あるものにすることはもとより、県の協力も得ながらより多くの県民に知ってもらうための工夫や発信に努めてほしい。
- 2 人口減少化は、長野県にとって大きな課題である。センターはこれまでも信州型コミュニティースクールへの関与などに取り組んできたが、これからはさらに、子どもの育ちを社会全体で支えるために、シニア世代の活躍の場として、子ども・青少年支援などにも目を広げた取り組みを進めてほしい。
- 3 長寿社会開発センターはシニア大学に設置した専門コースに象徴されるように、シニア期の多様な生き方を提案し取り組んできた。社会では「マルチステージ人生」という生き方も言われ始めている。センターがシニアに提案してきた手法を、これからのマルチステージ人生を生きる若い世代にも広める工夫をしてほしい。
- 4 人生 100 年時代のより豊かな生き方を如何に実現するか。これは行政やセンターだけでなく、県民が共に取り組まなければならない重要な課題だと認識している。それぞれの主体が協力して取り組みを進めてほしい。